

ほほ笑み便り NO. 6



令和4年2月18日
杉並区立八成小学校
校 内 委 員 会

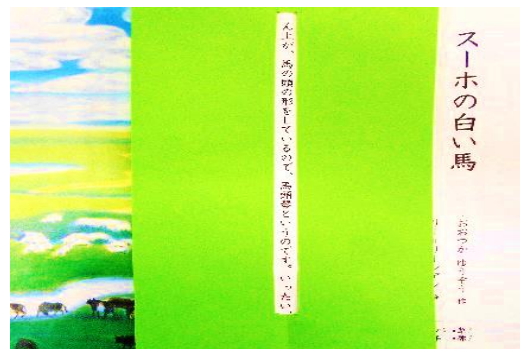
苦手なことあれこれ

ほほ笑み便りでは、子供たちの成長や言葉掛けのポイント、みんなが学ぶための考え方などをお伝えしています。今回は「苦手なこと」についてです。人の能力には個人差があり、それをどうサポートしていくか、その時の考え方について簡単な例を出して話していきます。

（その1）本の読み取りが苦手

文字がぎっしりと並んだ教科書。目で追いながら音読することはとても難しい、という児童がいます。実際に読んでいるとどこを読んでいるのか分からなくなり、止まってしまうという経験がある人は少なくないのではないのでしょうか。そのような困難を取り除くためには、補助道具を使うことがおすすです。画用紙やクリアファイルなどを行に合わせて切り抜けば完成です。

できるようになったら、2行・3行と幅を多くしていけば、より成長を感じられることにもなるでしょう。



（その2）忘れ物が多い

学校には持って来なければならないものがたくさんあり、時には学習用具や提出物を忘れることもあるでしょう。ただ、その頻度が高くてはスムーズに授業に入れなかったり、家庭と学校との連絡に支障が出たりするなど困ることが増えてしまいます。

原因は様々ですが、もともと持っている発達の特徴や苦手さであれば、叱り続けてなおせるものではなく、叱り続けていくことで、子供の意欲や自己肯定感がどんどん低下してしまいます。ではどうしたら良いのでしょうか。

家庭と担任でできることの例としては

- ① 学校で連絡帳（時間割や持ち物、手紙の枚数など）を書き、児童はそれを必ず保護者の方と確認し、次の日の持ち物を一緒に用意をする。
- ② 普段から何かを思い出させるような言葉掛けをする。
→「明日、何を持っていくことになっているんだっけ？」
「今度の日曜はどこに行くことになっていたかな？」など
- ③ 忘れ物をしなかったり、思い出せたりした時がチャンス！「当然のこと」とは思わず褒めましょう。
- ④ 学習用具をどうしても忘れてしまう場合には、学校に置いておくなどの対応や忘れてしまった時のルールを決めておきましょう。

甘やかすと苦手になおらないのでは・・・と心配する方もいらっしゃると思いますが、「どうしても苦手なこと」と「怠けていること」は違います。1番はそれを見極めて、子供が安心して学習できる環境を作ることが大切です。学校とご家庭で協力して取り組んでいきましょう。

「人の能力は人それぞれ」です。時には昨日できていたことができなくなったりすることもあるでしょう。そのような時も「他の子と比べる」のではなく、一人ひとりの能力に合わせてサポートしていけるよう学校でも取り組んでいきます。保護者の方々もお子様のことで何かお困りのことがあれば抱え込まず、学校へご相談ください。

【連絡先】

特別支援教育コーディネーター

川原 未来（音楽専科） 03-3399-3138（学校代表）

河合 香織（はちなり教室） 03-3399-3181（はちなり教室直通）

スクールカウンセラー 【毎週火曜出勤】

浦山 伸悟 03-3399-3160（スクールカウンセラー直通）